

# センター主催シンポジウム3

## OECD セミナー

### ー学校教育政策の国際的動向:OECD 教育政策分析からー

講演者 田熊美保(OECD 教育局教育政策アナリスト)

指定討論 大桃敏行(学校開発政策コース 教授)

勝野正章(学校開発政策コース 准教授)

司会 秋田喜代美(教育心理学コース 教授)

報告者 秋田喜代美(教育心理学コース 教授)

実施日 2011 年 3 月 2 日

於 教育学部赤門総合研究棟 A200番教室

#### 全体構成

本セミナーは17時から20時まで2部構成で OECD 職員の方をお招きして実施された。第1部 17時から17時45分まででは「国際協力機関で働きたい人へのガイダンス」題して OECD 東京センターの中谷好江所長と OECD 教育局教育政策アナリストの田熊美保さんにお話をいただき、第2部では、続いて田熊美保さんより「学校教育の国際的動向: OECD 教育政策分析から」としてお話をいただいた。

参加者は約80名である。今回は進路セミナーを同時開催を行ったことから、他研究科他大学からも院生の参加が見られたことが一つの特徴である。

#### 第一部内容概要

第一部ではまず、OECD(国際経済協力機構)が具体的にどのような分野の仕事をを行っているのかということについて、防衛以外のあらゆる内容に関しての政策分析等の仕事を実施されていること等、OECD が他の国際経済協力機関との相違についての話があった。

そしてその後、そこで働くためには職員として働く前に、いくつかのルートがありえること、特にその中でインターンシップ等へのエントリーの方法について、具体的にどのような人材をもとめているの

かということの説明や、カバーレターの書き方として、プロジェクト内容に即しての自分が何ができるのかという専門性のアピールを行うことの必要性などが説明され、具体的な質問がフロアからも積極的になされた。研究者とはちがいがかなり幅広くさまざまな分野で協働してプロジェクトを行っていく人材をもとめていること等が話された。

#### 第二部概要

第2部の田熊さんの話は大きく2つの観点に分かれている(参照 配布資料)。一つは OECD 教育局の教育政策分析の特徴である。内容が多岐にわたるものをカバーしていることとともに、アプローチとして、1. 数的分析、質的分析、2. 緊急政策課題(長期政策ニーズ)、3. エビデンス(諸外国事例)、4. ソフト、ハード、5. 先進国(途上国数量的分析にとどまらない)といった特徴をもっている点が挙げられる。

次に OECD に共通にみられる政策課題という点では、財政、ガバナンス、教室学校運営の3点を指摘することができる。まず第1に、財政に関しては、経済危機の中で教育予算を削減するのか、教育投資を行っていくのが共通の論題でありその中でプライオリティーをつけた教育投資の重要性、具体的には幼児教育保育政策の優先順位を高くすることの

必要性を指摘された。また経済格差が大きくなることで教育格差が大きくなり、特に韓国と日本は塾などで家庭の教育負担が大きくなってきていること、また少子高齢化において、インフラの効率的な活用、空き教室などをどのように活用していくのかという点についての問題点を指摘された。

第2にはガバナンスの問題であり、各国ともに地方・学校の自治の重視から校長、教員のリーダーシップが問題になっていること、またアカウンタビリティ重視から学力テスト、教員評価、学校評価等がなされてきているが、全国悉皆がいみをもつのかどうかを何の目的のためのテストかという点から位置づけなおすことの必要性、そして親の関与を個人的に意見する形態としていくのか、意見収集の情報をシステム化していくのか、日本は親の意見収集が制度化されていないという回答を得ているがそれであればその利点と課題は何かといった点を指摘された。

そして第3には、学校や教室運営について、ICT化ハード面(一人当たりのPC数、ソフトの充実)ソフト面(教え方、親との連絡、ネットを使いたいじめの対応など)に対応できているか、国際化としての移民の「言語習得」支援、受け入れる側の国際理解、移民の親とのコミュニケーション、移民コミュニティ・地域との連携などの課題への対応、知識社会経済化における人材育成計画と教育政策の一貫性、たとえば想像力などに対するニーズが高まっているがそれをカリキュラムが保障できているのか、またシングルペアレントなどの家族構成の変化、経済情勢の変化などを指摘された。また個別指導化がかならずしも学力を保障することにはつながっておらず教師の給与の方がよく学力を予測することが示されており、限られた予算の中での少人数制の実現と初任給引き上げ、あるいは質の高い教員確保のための代替案としての教員研修の問題などが指摘された。また学力には学級経営、しつけが良く予測することなどにも言及された。

そしてフロアからも OECD データの信頼性等に関しても予定時間を超えて活発に議論がされた。